

2・3学期の漢字

たしかめ 15

72	71	70	69	68
食	顔	雪	楽	合
夕食は、みんなで食べると楽しいね。	顔を洗うことを洗顔という。	大雪になって除雪が大変だ。	音楽の時間は楽しく歌いましょう。	答えが全部合っていた。合格だ。

たしかめ 16

77	76	75	74	73
妹	弟	止	走	歩
三姉妹、一番下の妹は甘えんぼ。	弟はとても元気だ。	信号の赤は「止まれ」だ。	助走から一気に全力で走り切った。	一日に歩く歩数は一万歩。

たしかめ 17

82	81	80	79	78
台	語	才	切	万
すべり台、上から下まで一直線。	外国語を小学校から習う。	子どもは遊びの天才だ。	のこぎりで木を切り二つに切断する。	この市の人口は約五万人。

たしかめ 18

87	86	85	84	83
北	工	図	広	絵
日本の一番北は北海道。	工夫して、紙工作をやってみた。	学校までの道を絵地図にする。	青空が広がる広大な空。	夏休みの思い出を絵日記に書く。

たしかめ

15

72	71	70	69	68
ゆうしよくは、みんなでたべるとたのしいね。	かおを洗うことを洗がんという。	おおゆきになって除せつがたい変だ。	おんがくのじかんはたのしく歌いましょう。	こたえが全部あっていた。ごう格だ

たしかめ

16

77	76	75	74	73
さん姉まい、いち番したのいもうとは甘えんぼ。	おとうとはとてもげんきだ。	信号のあかは「とまれ」だ。	助そうからいっきに全りよくではしり切った。	いちにちにあるくほすうはいち万ぼ。

たしかめ

17

82	81	80	79	78
すべりだい、うえからしたまでいつ直せん。	がいこくごをしようがっこうから習う。	こどもは遊びのてんさいだ。	のこぎりできをきりふたつにせつ断する。	この市のじんこうは約ごまんにん。

たしかめ

18

87	86	85	84	83
にほんのいち番きたはほつ海道。	く夫して、紙こうさくをやってみた。	がっこうまでの道をえちずにする。	あおぞらがひろがるこうだいなそら。	夏やすみのおもいでをえにつきにかく。

92	91	90	89	88
内	形	後	引	近
黄色い線の内側で電車を待つ。	三角形は、とがった形。	一番後ろは、最後です。	強引に引っ張ったら、切れた。	近づいてワツとおどかす近所の子。

97	96	95	94	93
雲	鳴	強	新	海
積乱雲を入道雲と呼んでいる。	空では雷鳴、鳥も鳴き止む嵐の夜。	相手は強いぞ、強敵だ。	新学期、新しいクラスになった。	深い海の底にいる深海魚。

102	101	100	99	98
朝	冬	店	船	晴
朝が来た。今日も朝食おいしいな。	熊は、冬の間は冬眠している。	お店が並ぶ商店街。	風船を船の上から飛ばした。	快晴とは、雲一つ無く晴れる日。

107	106	105	104	103
角	春	茶	市	週
四角形、角を切ったら八角形。	春の初めを早春という。	喫茶店でお茶でも飲もう。	市場で野菜を売っている。	一週間は七日です。

たしかめ

19

88	ちかづいて	ワツとおどかす	きん所 <small>じよ</small> のこ。
89	強い <small>てう</small> んに	ひつ張 <small>は</small> つたら、	きれた。
90	いち番 <small>ばん</small>	うしろは、最 <small>さい</small> ごです。	
91	さん角 <small>かく</small> けいは、	とがった	かたち。
92	きいろい	せん <small>せん</small> の	うち側 <small>がわ</small> で
		電 <small>でん</small> しやを	待 <small>ま</small> つ。

たしかめ

20

93	深い <small>ふか</small> うみの	底 <small>そこ</small> に	いる	深 <small>しん</small> かい魚 <small>ぎよ</small> 。
94	しんが	期 <small>き</small> 、	あたらしい	クラスに
		な	った。	
95	相 <small>あい</small> ては	つよいぞ、	きよう敵 <small>てき</small> だ。	
96	そらでは	雷 <small>らい</small> めい、	鳥 <small>とり</small> も	なきやむ
		嵐 <small>あらし</small> の	よる。	
97	積 <small>せき</small> 乱 <small>らん</small> うんを	に	ゆう道 <small>どう</small> ぐもと	呼 <small>よ</small> んでいる。

たしかめ

21

98	快 <small>かい</small> せいとは、	雲 <small>くも</small> ひとつ	無 <small>な</small> くは	れるひ。
99	ふうせんを	ふねの	うえから	飛 <small>と</small> ばした。
100	おみせが	並 <small>なら</small> ぶ	商 <small>しょう</small> てん街 <small>がい</small> 。	
101	熊 <small>くま</small> は、	ふゆの	あいだは	とう眠 <small>みん</small> している。
102	あさが	きた。	きようも	ちようしよく
		おいしいな。		

たしかめ

22

103	いっしゅうかんは	なの	かです。	
104	いちばで	や菜 <small>さい</small> を	売 <small>う</small> っている。	
105	喫 <small>きつ</small> さてんで	おちやでも	飲 <small>の</small> もう。	
106	はるの	初 <small>はじ</small> めを	そうしゅん	という。
107	しかくけい、	かどを	きつたら	はちかくけい。

たしかめ

23

108	夏	夏の初め <small>はじ</small> を初夏 <small>しよ</small> という。
109	秋	さわやかな秋晴れ、秋分の日。
110	東	東京は、大阪 <small>さか</small> より東の方にある。
111	南	南国は、南の方の国。
112	西	日本より西にある西洋 <small>よう</small> の国。

たしかめ

24

113	父	お父さんは、父親ともいう。
114	母	母親を「お母さん」と呼 <small>よ</small> んでいる。
115	兄	僕 <small>ぼく</small> の兄は五年生だ。
116	姉	妹は姉を「姉ちゃん」と呼 <small>よ</small> ぶ。
117	昼	お昼だな。今日の昼食、カレーだよ。

たしかめ

25

118	紙	画用紙は、絵かきに使う白 <small>つか</small> い紙。
119	室	教室で静 <small>しず</small> かに自習 <small>しじゆう</small> をした。
120	売	新聞も本も売っている駅 <small>えき</small> の売店。
121	買	売り買いすることを売買という。
122	道	細い道から大きな道路 <small>ろ</small> に出る。

たしかめ

26

123	米	ぜひ食 <small>く</small> べて。おいしいお米 <small>おうみ</small> の近江米。
124	歌	歌の歌詞 <small>し</small> を覚 <small>おぼ</small> えて歌う。
125	戸	台風が近づき雨戸を閉 <small>し</small> める。
126	曜	来週の水曜日は音楽会です。
127	午	明日の午後は晴れるでしょう。

たしかめ

23

108	なつ <small>はじ</small> の初めを初 <small>しよ</small> かという。
109	さわやかなあきばれ、しゅうぶんのひ。
110	とう京 <small>きやう</small> は、お大阪 <small>おさか</small> よりひがしのほうにある。
111	なんごくは、みなみのほうのくに。
112	にほんよりにしにあるせい洋 <small>よう</small> のくに。

たしかめ

24

113	おとうさんは、ちちおやともいう。
114	ははおやを「おかあさん」と呼 <small>よ</small> んでいる。
115	僕 <small>ぼく</small> のあにはごねんせいだ。
116	いもうとはあねを「ねえちゃん」と呼 <small>よ</small> ぶ。
117	おひるだな。きょうのちゅうしょく、カレーだよ。

たしかめ

25

118	が用 <small>よう</small> しは、えかきに用 <small>つか</small> うしろいかみ。
119	きょうしつで静 <small>しず</small> かにじ習 <small>しゅう</small> をした。
120	しんぶんもほんもうっている駅 <small>えき</small> のばいてん。
121	うりかいすることをばいばいという。
122	ほそいみちからおおきなどう路 <small>ろ</small> にでる。

たしかめ

26

123	ぜひたべて。おいしいおこめの近江 <small>おうみ</small> まい。
124	うたのか詞 <small>し</small> を覚 <small>おぼ</small> えてうたう。
125	たいふうがちかづきあまどを閉 <small>し</small> める。
126	らいしゅうのすいようびはおんがくかいです。
127	あすのごごははれるでしょう。

たしかめ

27

132	131	130	129	128
馬	取	池	岩	谷
馬二頭、並 <small>なら</small> んで馬車を引いている。	木の上で小鳥がさえずる。	水をためる池を貯水池 <small>ちよ</small> という。	岩山の岩石が道をふさぐ。	山の上から谷底 <small>ぞこ</small> を見る。

たしかめ

28

137	136	135	134	133
細	電	魚	番	首
細いけれど強いたこ糸。	新しい電池を店で買った。	水そうで泳 <small>およ</small> ぐ魚は金魚です。	今日のテレビ番組を調 <small>しら</small> べる。	百人一首をやりすぎて首が痛 <small>いた</small> い。

たしかめ

29

142	141	140	139	138
矢	弓	刀	汽	通
矢が的 <small>まと</small> に当たる。	バイオリンの弓は馬の毛で作る。	二本の刀を使う二刀流 <small>りゅう</small> 。	船の汽笛 <small>てき</small> が鳴る。	右側 <small>がわ</small> を通って通う通学路 <small>ろ</small> 。

たしかめ

30

147	146	145	144	143
弱	黒	寺	里	直
弱い動物 <small>どうぶつ</small> を食べる「弱肉強食」。	黒くないけれど黒板 <small>ばん</small> という。	金色に輝 <small>かが</small> くお寺、金閣寺 <small>かく</small> 。	山から里へ下りてきたサル。	直線がゆがんでしまい、引き直す。

たしかめ

27

1 3 2	1 3 1	1 3 0	1 2 9	1 2 8
うまにとう、 <small>なら</small> 並んでばしやをひいている。	きのうえでことりがさえずる。	みずをためるいけを貯 <small>ちよ</small> すいちという。	いわやまのがんせきがみちをふさぐ。	やまのうえからたに底 <small>ぞこ</small> をみる。

たしかめ

28

1 3 7	1 3 6	1 3 5	1 3 4	1 3 3
ほそいけれどつよいたこいと。	あたらしいでんちを店 <small>みせ</small> でかつた。	すいそうで泳 <small>およ</small> ぐさかなはきんぎよです。	きょうのテレビばんぐみを調 <small>しら</small> べる。	ひやくにんいつしゆをやりすぎてくびが痛 <small>いた</small> い。

たしかめ

29

1 4 2	1 4 1	1 4 0	1 3 9	1 3 8
やが <small>まと</small> 的にあたる。	バイオリンのゆみはうまのけでつくる。	にほんのかたなを使う <small>つか</small> にとう流 <small>りゅう</small> 。	ふねのき笛 <small>てき</small> になる。	みぎ側 <small>がわ</small> をとおつてかようつうがく路 <small>ろ</small> 。

たしかめ

30

1 4 7	1 4 6	1 4 5	1 4 4	1 4 3
よわい動物 <small>どうぶつ</small> をたべる「じやくにくきようしよく」。	くろくないけれどこく板 <small>ばん</small> という。	きんいろに輝 <small>かがや</small> くおてら、きん閣 <small>かく</small> じ。	やまからさとへおりてきたサル。	ちよくせんがゆがんでしまい、ひきなおす。

たしかめ

31

152	151	150	149	148
理	公	半	古	遠
理科室は、三年生から使います。	公園で友達と遊んだ。	このケーキ、私と姉で半分こ。	古い時代を古代という。	遠くまで遠足に行きました。

たしかめ

32

157	156	155	154	153
京	羽	帰	毎	用
京都にはたくさんのお寺がある。	一羽の鳥が、羽を広げて飛んでいく。	家に帰ることを帰宅という。	毎年、春にはツバメが来る。	画用紙を用いて作る馬の親子。

たしかめ

33

160	159	158
星	交	麦
星空だ。土星や金星がよく見える。	道と道、交わるところが交差点。	麦茶を飲んで少し休もう。

たしかめ

31

1 5 2	1 5 1	1 5 0	1 4 9	1 4 8
りかしつは、さんねんせいから使 ^{つか} います。	こうえんでとも達 ^{たち} と遊 ^{あそ} んだ。	このケーキ、私 ^{わたし} とあねではんぶんこ。	ふるいじ代 ^{だい} をこ代 ^{だい} という。	とおくまでえんそくにいきました。

たしかめ

32

1 5 7	1 5 6	1 5 5	1 5 4	1 5 3
きょう都 ^と にはたくさんのてらがある。	いちわのとりが、はねをひろげて飛 ^と んでいく。	いえにかえることをき宅 ^{たく} という。	まいとし、はるにはツバメがくる。 (*「まいねん」とも読 ^よ む)	がようしをもちいてつくるうまのおやこ。

たしかめ

33

1 6 0	1 5 9	1 5 8
ほしぞらだ。どせいやきんせいがよくみえる。	みちとみち、まじわるところがこう差 ^さ てん。	むぎちやを飲 ^の んですこしやすもう。